

経験した子どもの特徴のひとつとして、本研究では「注意/多動の問題」があることが示唆された。これは、ネグレクトの状態に置かれた子どもは適切な愛着を形成することができず、その結果、注意や衝動性の制御に問題を生じる可能性があることと関連していると考えられる。ネグレクト環境で成長した子どもたちの注意や衝動性の問題、あるいはその背景にある愛着の問題へのアプローチが必要であるといえる。また、そのほか、「学校不適応」と「感情抑制」についてもネグレクトとの関連が指摘された。これには、ネグレクト的な環境では、子どもは登校を含めた生活意欲の形成が十分にできないことが関係している可能性がある。また、子どもの感情表現や感情表出の発達は環境側の適切な応答性を条件にしていることを考えるなら、ネグレクト環境で育つことによって感情抑圧や抑制の傾向が生じることも了解できよう。

性的虐待を受けた子どもには、「性的逸脱行為」と「反社会的逸脱行動」が顕著に見られた。また、「希死念慮/自傷性」と「学校不適応」も、性的虐待を受けた子どもの特徴であることが示唆された。性的虐待を受けた子どもには性化行動や不適切な性的表現、あるいは性的非行など、さまざまな性的に不適切な行動が認められることが従来から指摘されており、今回の研究も従来の知見と一致する結果となった。子どもに不適切な性的行動が見られた場合には、性的な被害体験の存在を考える必要があるかもしれない。また、性的虐待と反社会的行動との関連性に関しても、これまでの臨床経験と一致するものである。

性的虐待はこうした外在化された「問題

行動」に結びつく一方で、セルフカットなどの自傷行為をはじめとするさまざまな精神的な問題を生じる危険性があると考えられてきているが、ACBL-Rにおいても「希死念慮/自傷性」という形でそうした特徴が窺われたと言える。

DVの目撃を経験してきた子どもたちには、身体的虐待やネグレクトあるいは性的虐待などのようにその種別に顕著な影響は見られなかった。しかし、ACBL-Rが把握する多くの行動特徴を、虐待をほとんど経験していない子どもに比べると強く示す傾向があることは明らかとなった。これまで臨床的に捕らえられてきたように、DVの目撃という体験が直接的な虐待体験に順ずる影響を子どもに与えていることが実証的に示されたと言えよう。

今回は心理的虐待の影響に関しては分析ができなかった。それは、心理的虐待が他の種別の虐待と合併を生じやすいという特徴があったためである。また、子どもたちの虐待体験の分布に関して、心理的虐待は他の種別の虐待とは異なった様相を呈していることも今回の分析で示されている。心理的虐待は、親から子どもへの『心理的可虐性』を純粋な形で表現しているという意味で虐待の本質だとも言われているが(亀岡, 1997)、今回明らかとなった心理的虐待の特徴は、そうした「本質性」と関係している可能性があり、今後の探求が望まれる。

4. 施設生活への子どもの適応に影響を与える要因について

AEI-RとACBL-Rの得点を施設生活の安定度と比較したところ、AEI-Rはほとん

ど関係がなく、一方で ACBL-R のいくつかの得点が生活の安定性とある程度関連していることが明らかとなった。つまり、経験した虐待の種別がその後の施設生活の安定性に及ぼす影響は今回の研究では明らかにできなかったことになる。一方で、虐待の影響であると考えられる行動特徴は、ある程度、その後の生活の様相と関連していると言えよう。

ACBL-R のなかでもっとも強い関係があったのは総得点であった。したがって、児童相談所等でのアセスメントにおいて ACBL-R の得点が顕著に高い場合には、その後の施設生活への不適応を予想し、単なる生活レベルの援助だけではなく、心理療法や精神科的な援助の必要性を想定しておく必要があるだろう。また、虐待的人間関係の再現性や力による対人関係という特徴も、施設生活の安定性にある程度の影響を与えることが示唆された。こうした子どもの対人関係の特徴をどのように取り扱い適切な援助を提供していくかが、子どもの生活の安定化を図る上で重要な意味を持つと考えられる。

一方で、今回の結果は、現在の施設養護のあり方を前提としたものであることには注意を払う必要がある。今回の研究では、たとえば不登校傾向などの「学校不適応」という特徴が、虐待女子群で生活の安定性とある程度のある関係があるとの結果となっているが、これは、現在の施設ケアが「昼間に子どもが施設にいる」ことを前提としていないという現状を反映したものである可能性がある。深刻な虐待を受けた子どもが学校不適応を生じることは通常よくあることであり、これが「施設生活への不適応」

につながるとするなら、それは子どもの問題ではなく、現行の施設ケアの制度としての限界の反映であると考えられることも可能である。このように、今回の分析の結果は、あくまでも現在の施設ケアのあり方を前提としたものであることに留意しなくてはならない。

E. 結論

今回、子どもの虐待体験の評価尺度、及び虐待に起因する行動特徴を評価するための信頼性及び妥当性を備えた尺度を作成し、これを用いて虐待の種別による子どもの行動への影響を分析した。また、現在の施設生活への子どもの適応を妨げている要因となる子どもの問題行動を分析した。

今後、子どもへのソーシャルワークやケアプランの策定においては、これらの尺度を活用し、子どもの虐待体験やその影響であると考えられる行動特徴を十分に考慮に入れる必要がある。

《参考文献》

- Achenbach, T.M., & Edelbrock, C.S. Manual for the Child Behavior Checklist and Revised Child Behavior Profile. Burlington, Dep. Of Psychiatry, Univ. of Vermont, 1983.
- 亀岡智美. 被虐待児の精神医学. 臨床精神医学, 26(11), 11-17, 1997.
- 西澤 哲. ト라우マの臨床心理学. 金剛出版, 1999.
- 坪井裕子. Child Behavior Checklis / 4-18 (CBCL)による被虐待児の行動と情緒の特徴: 児童養護施設における調査の検討. 未発表.

Wolf, V.V., Gentile, C., & Wolfe, D.A.
The Impact of Sexual Abuse on
Children: A PTSD Formulation.
Behavior Therapy, 20, 215-228,
1989.

【謝辞】

本研究の実施に当たっては、全国社会福祉協議会、全国の児童養護施設、小中学校及び高等学校の多大なるご協力をいただきました。ここに感謝の意を述べさせていただきます。

F. 研究発表

1. 論文発表

西澤哲. ト라우マ関連障害と心理療法.
小児の精神と神経, 45(1), 31-36,
2005.

2. 学会発表

Nishizawa, S. Childhood Trauma in
Japan. 2003 年度大阪教育大学学校
危機管理センター国際シンポジウム.
2004.

松原秀子ら. 虐待が及ぼす子どもの行動
への影響に関する研究. (1)虐待経験尺
度の開発について. 第45回日本児童青
年精神医学会. 2004.

山本知加ら. 虐待が及ぼす子どもの行動
への影響に関する研究. (2)虐待を受け
た子どもの行動チェックリストの開発につ
いて. 第45回日本児童青年精神医学
会. 2004.

沼谷直子ら. 虐待が及ぼす子どもの行動
への影響に関する研究. (3)「虐待経験
尺度」と「虐待を受けた子どもの行動チェ

ックリスト」を用いた実証的研究. 第45
回日本児童青年精神医学会. 2004.
藤澤陽子ら. 虐待が及ぼす子どもの行動
への影響に関する研究. (4)性的虐待を
受けた子どもの行動特徴について. 第
45回日本児童青年精神医学会. 2004.

表 1-1 各群の性別度数と構成比

	施設群	一般群
男	424(52.6%)	968(50.0%)
女	382(47.4%)	969(50.0%)
欠損値	4	134
合計	810	2071

表 1-2 各群の年齢度数と構成比

	施設群	一般群
6～9 歳	268(33.5%)	817(45.3%)
10～12 歳	228(28.5%)	605(33.5%)
13～15 歳	225(28.1%)	303(16.8%)
16～18 歳	80(10.0%)	79(4.4%)

表 2-1 AEI-R の因子分析結果

	F1	F2	F3	F4	F5
季節にふさわしい衣類が用意されていない	.954	-.065	-.082	-.032	-.013
学校の教材などが適切に整えられていない	.855	-.078	-.001	-.083	.046
子どもが学校に行かなくても、親は無関心である	.854	-.031	-.060	-.091	.043
入浴・着替えなどの衛生管理がなされていない	.780	.000	-.025	.092	.000
病気や障害に対する適切な治療や援助を受けていない	.724	.187	-.065	-.054	-.059
予防接種を受けていない	.705	.021	.025	.007	-.054
食事が規則正しく提供されていない	.622	.040	.015	.238	.013
子どもが病気であっても親は無理やり登校させる	.611	.109	-.016	-.026	-.047
親の就労や夜遊びなどのため夜間子どもだけで過ごすことがある	.595	-.113	.097	.133	.079
子どもに未治療の虫歯がある	.484	.042	-.006	.017	.014
「しつけ」のために、親が子どもに、殴る、蹴るなど、用具を使った身体的暴力をふるっていた	.000	.896	-.046	-.026	-.010
「しつけ」のために、親が子どもに、殴る、蹴るなど、用具を使わない身体的暴力をふるっていた	-.059	.827	.039	.098	.000
子どもの身体に痣がある	.054	.680	-.071	-.063	-.047
しつけのために夜間戸外に締め出されている	.042	.583	-.004	.015	.100
親が、アルコールや薬物を摂取した際に、子どもに身体的暴力をふるっている	.117	.556	.167	-.136	-.020
子どもの身体に火傷の跡がある	-.076	.385	-.004	.021	.044
夫婦間の身体的暴力をともなう喧嘩を目撃している	.074	.004	.859	-.052	-.017
夫婦間の身体的暴力をともなわない喧嘩を目撃している	.069	-.015	.796	.032	.007
夫婦間の喧嘩の結果一方の親が子どもを連れて家出をしたことがある	-.020	-.006	.639	-.008	-.026
夫婦間の身体的暴力をともなう喧嘩の結果、救急車や警察官などが家にやってきたことがある	-.110	.067	.596	-.099	.020
夫婦間の喧嘩の結果一方の親が子どもを置いて家出をしたことがある	.124	-.113	.519	.118	-.044
夫婦間の身体的暴力をともなう喧嘩の結果、親が入院したことがある	-.140	.004	.464	-.024	.049
悲しいときに親に慰めてもらっていない	.073	-.064	-.041	.953	-.014
親に気持ちを受け止めてもらっていない	.070	-.028	-.026	.918	.004
年齢に応じた遊びや話し相手を親にしてもらっていない	.147	-.041	-.051	.879	-.003
親が子どもに対して拒否的な言葉や態度を示している	-.045	.293	.023	.609	-.015
子どもに対する親の態度や指示に一貫性が無く、子どもが混乱している	.145	.216	.138	.427	.025
親やきょうだい以外のものとの性交以外の性的接触がある	.020	.019	.027	-.021	.908
親やきょうだい以外のものとの性交がある	.002	.024	-.012	.005	.850

	F1	.496	.517	.726	.123
因子間相関	F2		.496	.517	.726
	F3			.557	.078
	F4				.175

表 2-2 AEI-R($\alpha=.937$)5 因子 35 項目

ネグレクト (10 項目) ($\alpha=.921$)	季節にふさわしい衣類が用意されていない 子どもが学校に行かなくても、親は無関心である 学校の教材などが適切に整えられていない 入浴・着替えなどの衛生管理がなされていない 病気や障害に対する適切な治療や援助を受けていない 予防接種を受けていない 食事が規則正しく提供されていない 子どもが病気であっても親は無理やり登校させる 親の就労や夜遊びなどのため夜間子どもだけで過ごすことがある 子どもに未治療の虫歯がある
身体的虐待 (6 項目) ($\alpha=.821$)	「しつけ」のために、親が子どもに、殴る、蹴るなど、用具を使った身体的暴力をふるっていた 「しつけ」のために、親が子どもに、殴る、蹴るなど、用具を使わない身体的暴力をふるっていた 子どもの体に痣がある しつけのために夜間戸外に締め出されている 親がアルコールや薬物を摂取した際に、子どもに身体的暴力をふるっている 子どもの体に火傷の跡がある
DV の目撃 (6 項目) ($\alpha=.799$)	夫婦間の身体的暴力を伴う喧嘩を目撃している 夫婦間の身体的暴力を伴わない喧嘩を目撃している 夫婦間の喧嘩の結果、一方の親が子どもを連れて家出をしたことがある 夫婦間の身体的暴力を伴う喧嘩の結果、救急車や警察官などが家にやってきたことがある 夫婦間の喧嘩の結果、一方の親が子どもをおいて家出をしたことがある 夫婦間の身体的暴力を伴う喧嘩の結果、親が入院したことがある
心理的虐待 (5 項目) ($\alpha=.946$)	悲しい時に親に慰めてもらってない 親に気持ちを受け止めてもらってない 年齢に応じた遊びや話し相手を親にしてもらってない 親が子どもに対して拒否的なことばや態度を示している 子どもに対する親の態度や指示に一貫性がなく、子どもが混乱している
性的虐待 (8 項目) ($\alpha=.611$)	親との性交がある 親との性交以外の性的接触がある きょうだいとの性交がある

	きょうだいとの性交以外の性的接触がある 親やきょうだい以外との性交がある 親やきょうだい以外との性交以外の性的接触がある ビデオや雑誌など、年齢不相応の性的刺激を受けている 親などの性的行為を目撃している
--	--

表 2-3 AEI-R の因子間相関

	総得点	ネグレクト	身体的虐待	DVの目撃	心理的虐待
ネグレクト	.903(**)	—			
身体的虐待	.695(**)	.463(**)	—		
DVの目撃	.686(**)	.482(**)	.458(**)	—	
心理的虐待	.904(**)	.749(**)	.588(**)	.535(**)	—
性的虐待	.425(**)	.319(**)	.256(**)	.249(**)	.337(**)

**p<.01

表 2-4 クロンバックの α 係数

	総得点	ネグレクト	身体的虐待	DVの目撃	心理的虐待	性的虐待
クロンバック の α 係数	.937	.921	.821	.799	.946	.611

表 2-5 各群の AEI-R 得点の平均と標準偏差

	総得点	ネグレクト	身体的虐待	DVの目撃	心理的虐待	性的虐待
施設虐待群	61.64(14.12)	20.80(8.15)	9.18(3.77)	9.42(3.76)	14.34(4.52)	8.62(1.59)
施設非虐待群	42.65(8.07)	13.55(5.05)	6.12(0.63)	7.16(2.33)	8.11(3.57)	8.12(0.57)
一般群	36.56(4.92)	10.72(2.41)	6.13(0.67)	6.17(0.91)	5.64(2.15)	8.05(0.47)

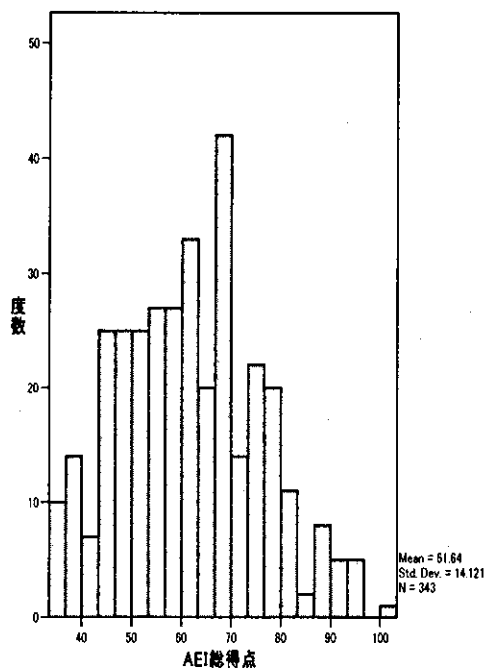


図 2-1 施設虐待群ヒストグラム(総得点)

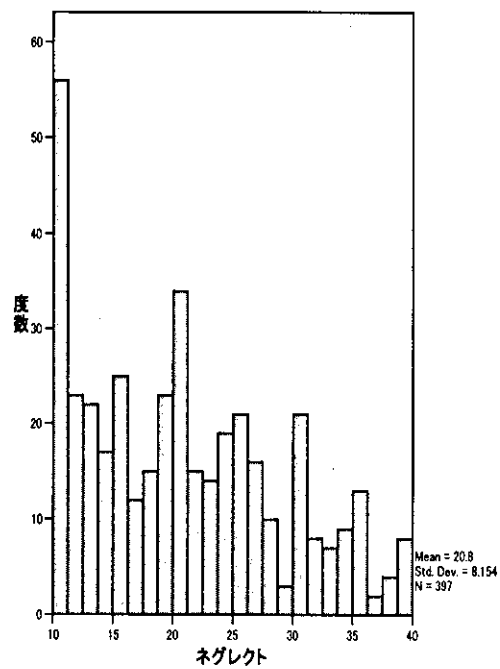


図 2-2 施設虐待群ヒストグラム(ネグレクト)

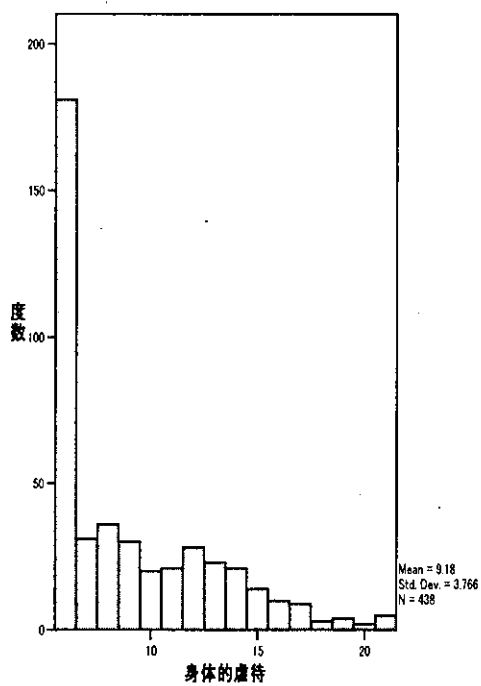


図 2-3 施設虐待群ヒストグラム(身体的虐待)

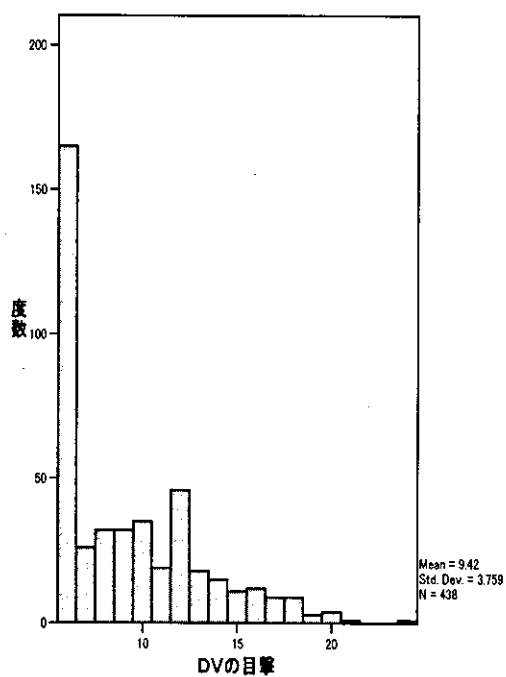


図 2-4 施設虐待群ヒストグラム(DV の目撃)

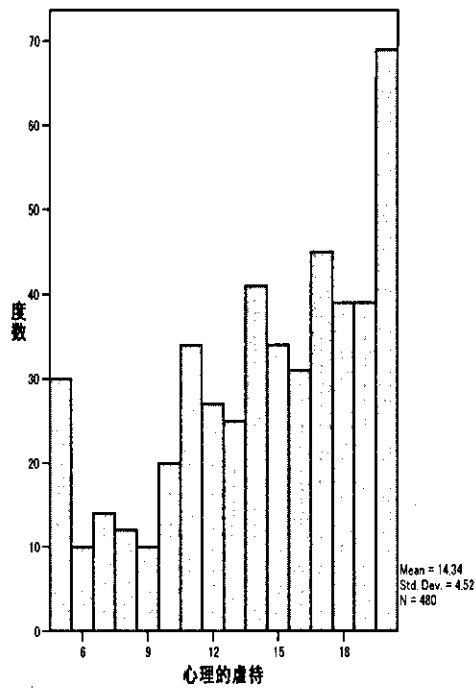


図 2-5 施設虐待群ヒストグラム(心理的虐待)

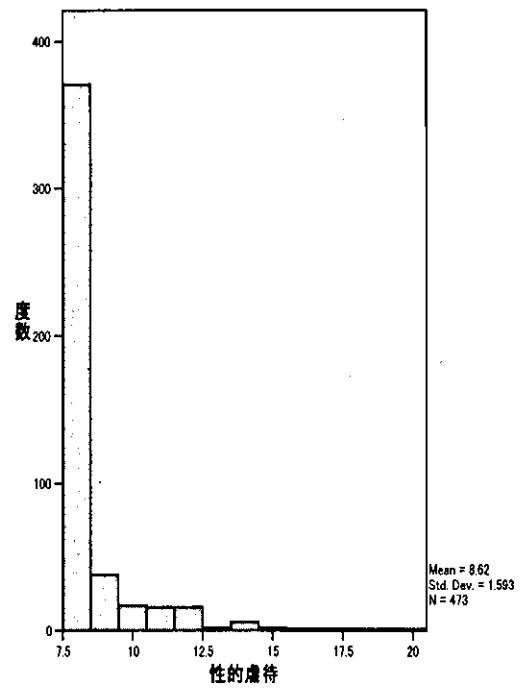


図 2-6 施設虐待群ヒストグラム(性的虐待)

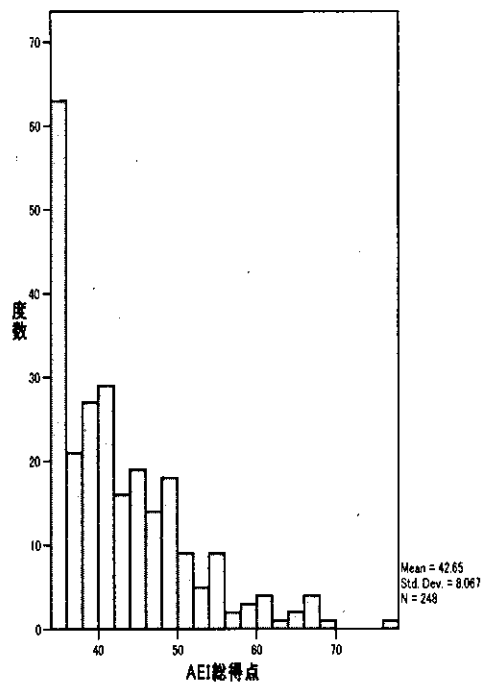


図 2-7 施設非虐待群ヒストグラム(総得点)

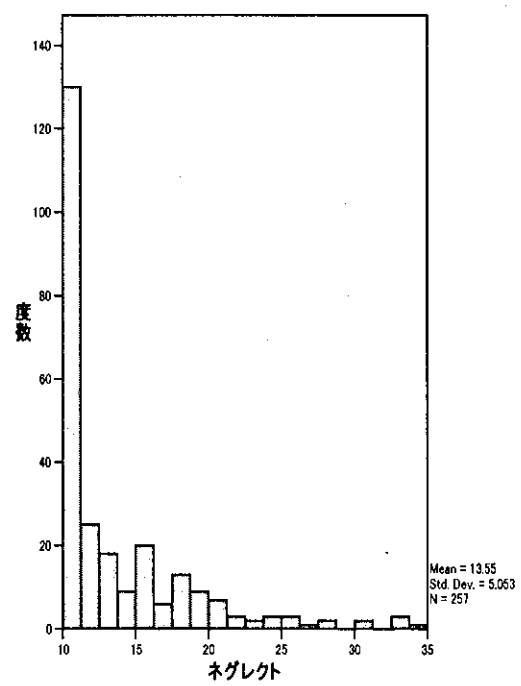


図 2-8 施設非虐待群ヒストグラム(ネグレクト)

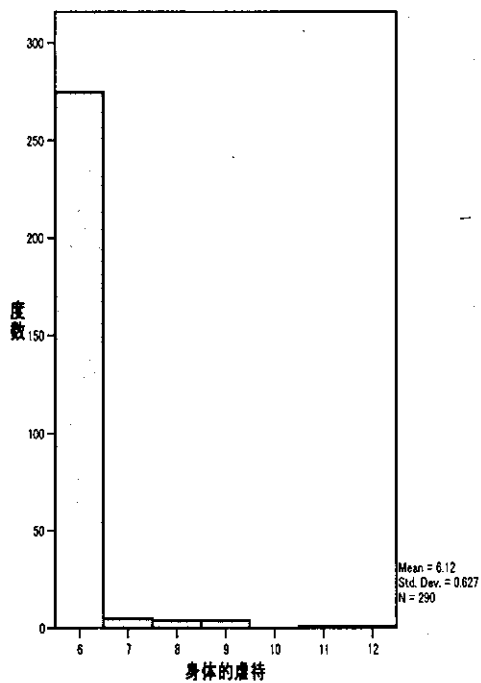


図 2-9 施設非虐待群ヒストグラム(身体的虐待)

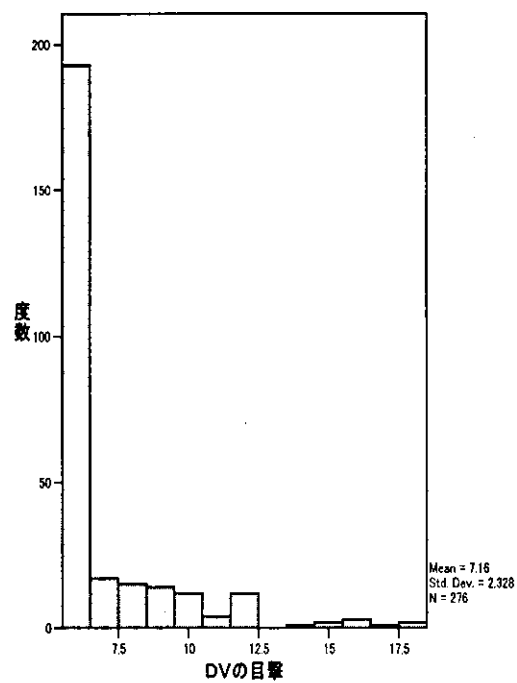


図 2-10 施設非虐待群ヒストグラム(DVの目撃)

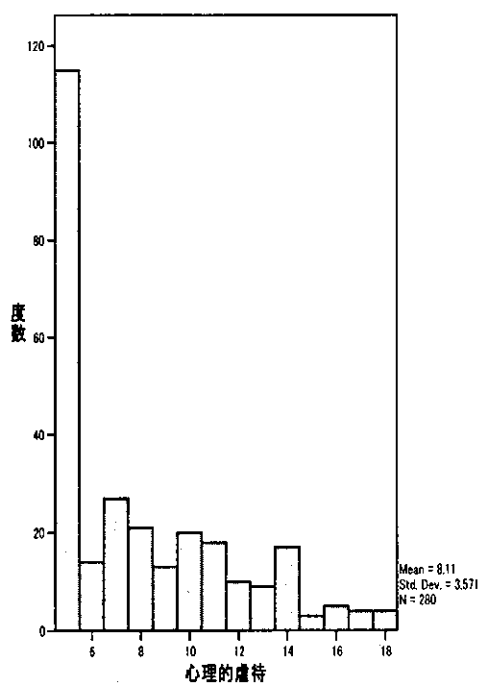


図 2-11 施設非虐待群ヒストグラム(心理的虐待)

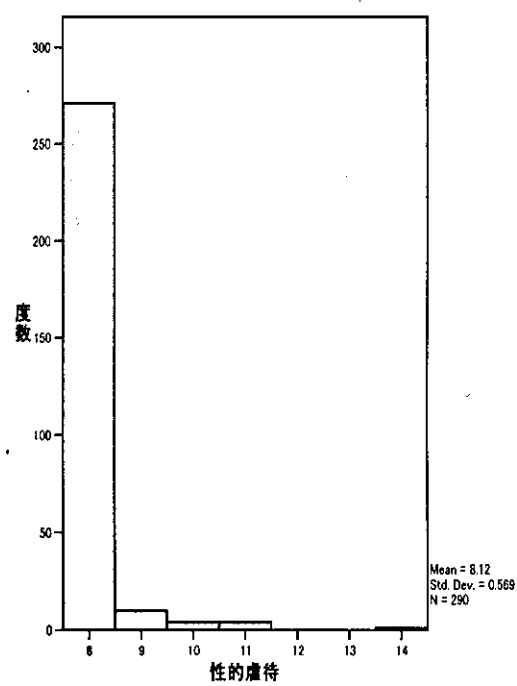


図 2-12 施設非虐待群ヒストグラム(性的虐待)

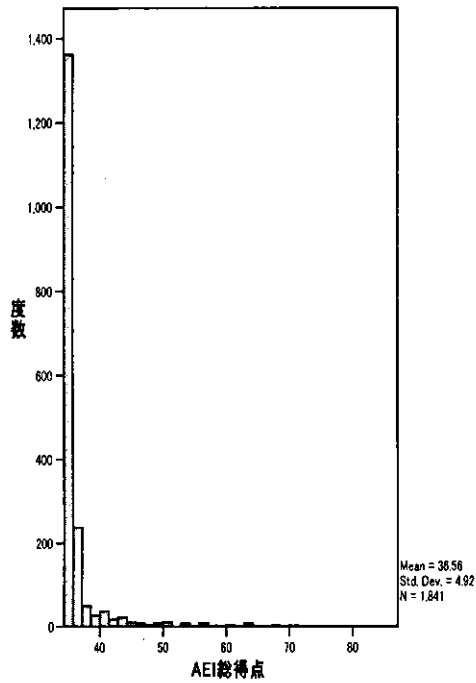


図 2-13 一般群ヒストグラム(総得点)

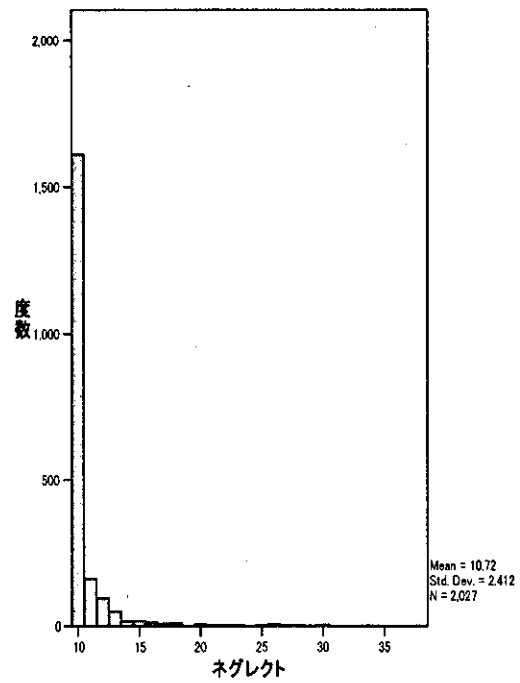


図 2-14 一般群ヒストグラム(ネグレクト)

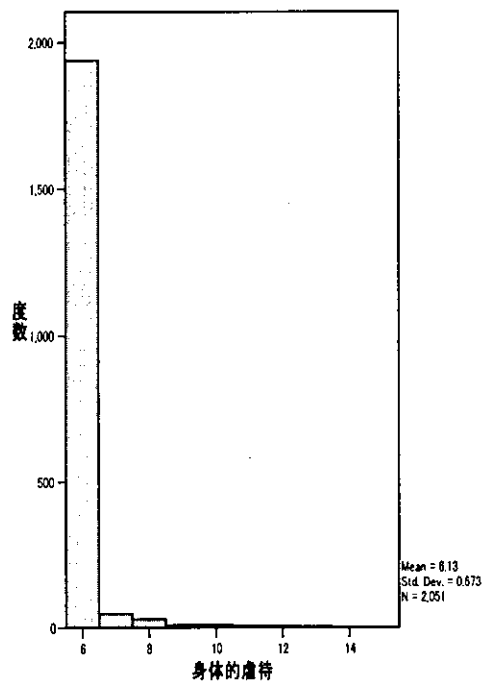


図 2-15 一般群ヒストグラム(身体的虐待)

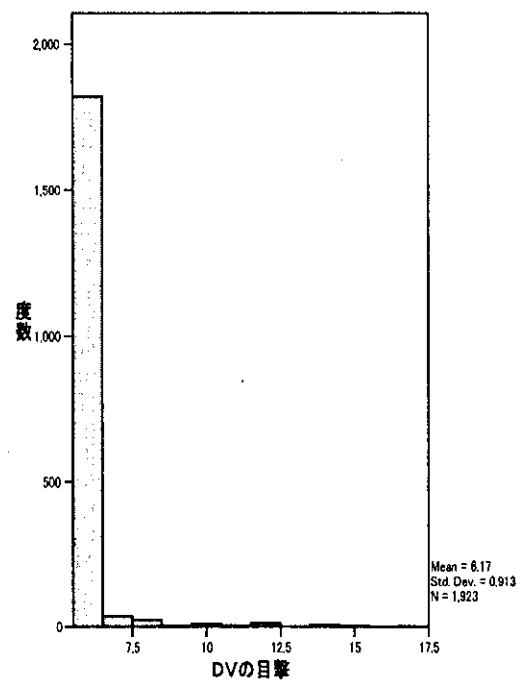


図 2-16 一般群ヒストグラム(DVの目撃)

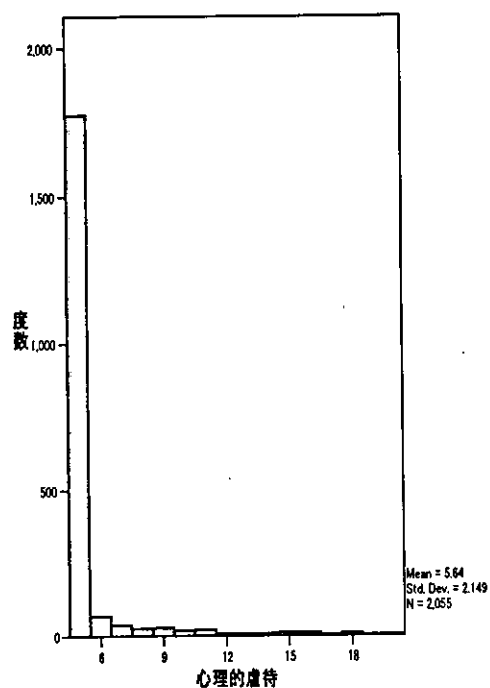


図 2-17 一般群ヒストグラム(心理的虐待)

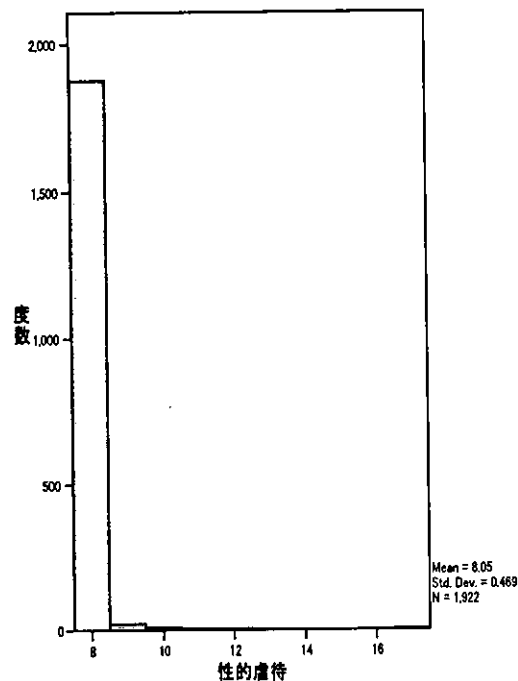


図 2-18 一般群ヒストグラム(性的虐待)

表 2-6 各群の AEI-R 得点の平均と標準偏差および一要因分散分析結果

	施設虐待群		施設非虐待群		一般群		分散分析結果	多重比較 (Tukey 法)
総得点	61.64	(14.12)	42.65	(8.07)	36.56	(4.92)	F(2,2429)=1724.30**	施虐>施非虐>一般
ネグレクト	20.80	(8.15)	13.55	(5.05)	10.72	(2.41)	F(2,2678)=1020.36**	施虐>施非虐>一般
身体的虐待	9.18	(3.77)	6.12	(0.63)	6.13	(0.67)	F(2,2776)=656.98**	施虐>一般,施非虐
DV の目撃	9.42	(3.76)	7.16	(2.33)	6.17	(0.91)	F(2,2634)=541.02**	施虐>施非虐>一般
心理的虐待	14.34	(4.52)	8.11	(3.57)	5.64	(2.15)	F(2,812)=1824.71**	施虐>施非虐>一般
性的虐待	8.62	(1.59)	8.12	(0.57)	8.05	(0.47)	F(2,2682)=96.58**	施虐>施非虐,一般

**p<.01

表 2-7 AEI-R 下位尺度得点と年齢の相関

	総得点	ネグレクト	身体的虐待	DV の目撃	心理的虐待	性的虐待
年齢	.092**	.068**	.083**	.074**	.117**	.090**

**p<.01

表 2-8 性別による AEI-R 得点の平均と標準偏差の比較

	ネグレクト	身体的虐待	DV の目撃	心理的虐待	性的虐待	総得点
平均値	12.57(5.48)	6.62(1.98)	6.86(2.29)	7.46(4.36)	8.16(0.83)	40.95(11.44)
男性	12.78(5.70)	6.75(2.22)	6.94(2.42)	7.63(4.44)	8.14(0.67)	41.40(11.87)
女性	12.50(5.37)	6.53(1.77)	6.83(2.22)	7.41(4.34)	8.20(0.98)	40.83(11.25)
t検定	t(2605)=1.25	t(2716)=2.82	t(2575)=1.20	t(2750)=1.32	t(2626)=-1.84	t(2361)=1.20
結果	n.s.	**	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.

**p<.01

表2-9 虐待種別の重複

	度数	パーセント	累積パーセント
単一虐待	346	32.9	32.9
重複虐待	707	67.1	100.0

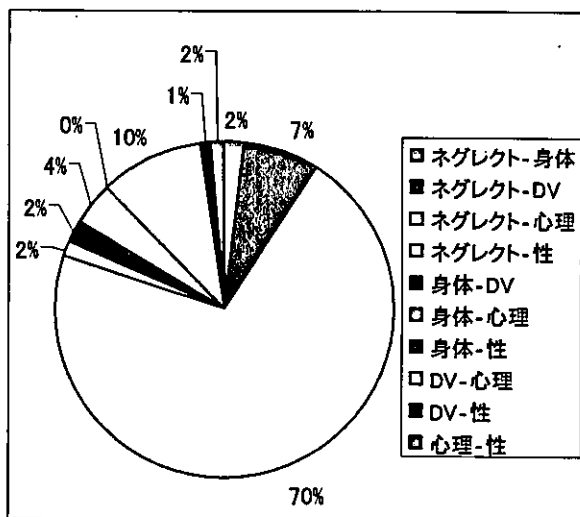


図 2-19 2 種重複の内容

表 2-10 2 種重複の内容(N=264)

	N
ネグレクト-身体	5
ネグレクト-DV	19
ネグレクト-心理	187
ネグレクト-性	4
身体-DV	6
身体-心理	11
身体-性	0
DV-心理	26
DV-性	2
心理-性	4

表 2-11 3 種重複の内容(N=231)

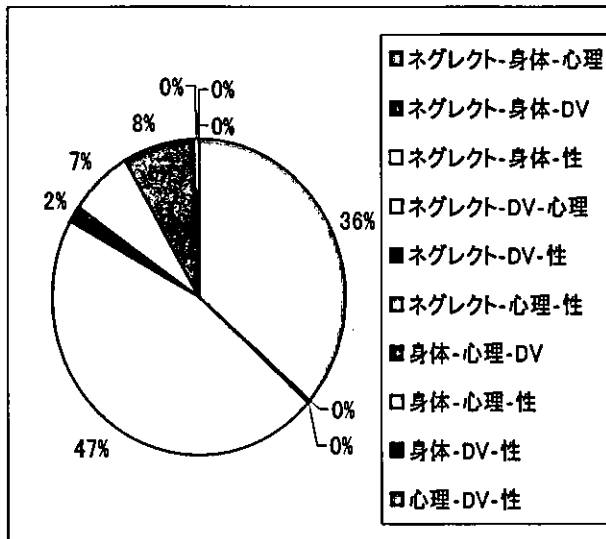


図 2-20 3 種重複の内容

	N
ネグレクト-身体-心理	84
ネグレクト-身体-DV	1
ネグレクト-身体-性	0
ネグレクト-DV-心理	107
ネグレクト-DV-性	4
ネグレクト-心理-性	16
身体-心理-DV	18
身体-心理-性	1
身体-DV-性	0
心理-DV-性	0

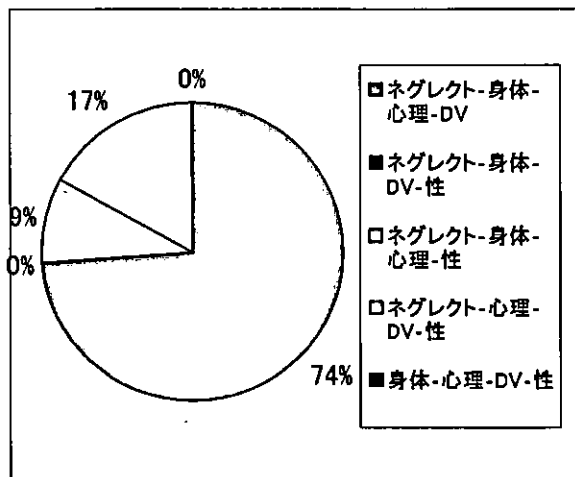


図 2-21 4 種重複の内容

(N=153)

表 2-12 4 種重複の内容

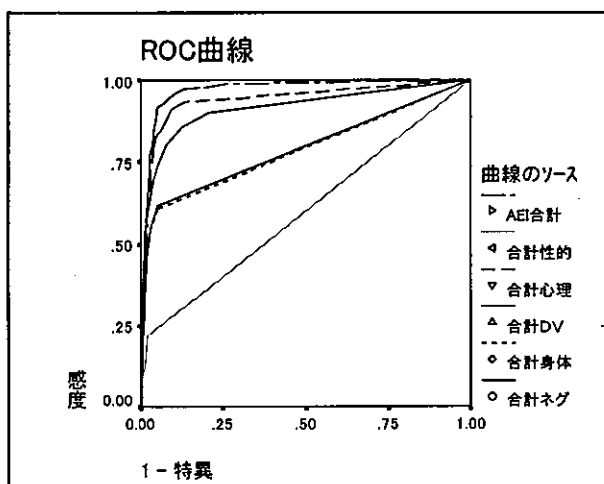
	N
ネグレクト-身体-心理-DV	113
ネグレクト-身体-DV-性	0
ネグレクト-身体-心理-性	14
ネグレクト-心理-DV-性	26
身体-心理-DV-性	0

表 2-13 AEI-R の平均値及び得点の範囲

		施設虐待群	一般群
総得点	度数	339	1841
	平均値(SD)	61.79(14.02)	36.56(4.92)
	最小値-最大値	35-101	35-87
ネグレクト	度数	393	2027
	平均値(SD)	20.84(8.11)	10.72(2.41)
	最小値-最大値	10-40	10-38
身体的虐待	度数	434	2051

	平均値(SD)	9.20(3.77)	6.13(0.67)
	最小値-最大値	6-21	6-15
	度数	434	1923
DV の目撃	平均値(SD)	9.44(3.76)	6.17(0.91)
	最小値-最大値	6-24	6-17
	度数	476	2055
心理的虐待	平均値(SD)	14.33(4.50)	5.64(2.15)
	最小値-最大値	5-20	5-20
	度数	469	1922
性的虐待	平均値(SD)	8.63(1.60)	8.05(0.47)
	最小値-最大値	8-20	8-17
	度数	469	1922

表 2-14 曲面下の面積



	面積	標準誤差	有意確率
総得点	0.97	0.01	0.00
ネグレクト	0.92	0.01	0.00
身体的虐待	0.79	0.02	0.00
DV の目撃	0.79	0.01	0.00
心理的虐待	0.94	0.02	0.00
性的虐待	0.60	0.01	0.00

図 2-22 ROC 曲線 AEI-R 総得点・下位因子得点

表 2-15 AEI-R 各得点のカットオフ値

	カットオフ値	感度(%)	特異度(%)
総得点	43.5	91.4	95.1
ネグレクト	10.5	90.8	79.5
身体的虐待	6.5	59.0	94.6
DV の目撃	6.5	62.7	94.7
心理的虐待	6.5	92.0	89.8
性的虐待	8.5	21.7	97.7

表 3-1 ACBL-R の因子分析結果

質問項目	因子									
	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10
大人に対して反抗的な態度を示す	.914	-.155	.075	.117	-.023	-.079	-.055	-.005	-.086	.005
大人や年長者に対して挑発的な態度をとる	.879	-.067	.067	-.023	-.081	.020	-.052	-.021	-.089	.069
職員などの大人の怒りをかうような言動が見られる	.852	.037	.112	-.001	-.098	-.046	-.072	-.079	-.042	.046
人の神経を逆なでする	.843	.061	.064	-.084	-.088	.036	-.019	-.115	.046	.021
大人の心を傷つける言動がある	.797	-.089	-.002	.160	-.042	-.021	.038	-.030	-.052	.049
年少の子どもに対して、威圧的態度をとる	.795	-.015	-.106	-.102	.033	-.064	-.166	.125	.044	.095
自分を誇示するような言動がある	.705	-.165	.108	-.058	.073	.126	-.023	.038	.010	-.156
強者に対する態度と弱者に対する態度が極端に異なる	.699	.011	-.045	-.052	.071	-.037	-.065	.068	.090	.036
イライラする	.692	.026	-.095	.001	-.040	-.004	.039	.008	-.059	.208
「どうせ大人は～」と、大人への不信感を口にする	.628	-.073	-.122	.083	.066	-.053	.281	.046	-.036	-.078
スポーツや趣味で得意だったり、自信を持っていることがない	-.073	.836	-.055	.007	-.087	.045	-.061	-.063	.057	-.031
勉強で何か得意な分野や自信を持っているものがまったくない	-.105	.795	.041	.031	-.038	-.038	-.044	.101	-.031	-.043
何事につけても自信がない	-.051	.776	-.046	-.123	.005	.019	.131	.017	.002	-.012
将来の夢がまったくもてない	-.107	.763	-.013	.024	-.026	-.046	-.002	.116	-.015	.115
遊びや趣味などで夢中になれるものがない	-.053	.627	.010	.055	-.010	.047	-.161	-.049	.044	.073
多動でじっとしていることが出来ない	.021	-.144	.900	.057	.061	.029	.032	-.097	-.075	-.024
落ち着きがない	.061	.032	.867	.019	-.053	.003	.017	-.045	-.008	-.065
注意の集中が出来ない	-.013	.170	.805	.011	.041	.037	-.023	-.041	-.051	-.069
学用品などの物をよくなくす	.023	.037	.697	-.016	-.003	-.091	.036	.065	-.007	-.029
衝動的に行動してしまう	.251	.016	.522	.018	-.040	.023	.029	.099	-.038	.121
無断欠席が多い	.045	-.080	-.033	.744	.020	.064	-.036	-.031	-.012	.014
昼夜逆転である	-.125	-.003	.026	.736	.112	-.028	.042	-.047	.054	.028
不登校の傾向がある	-.046	.057	-.040	.732	.012	.047	.016	-.220	.067	.134
朝起きられない	.011	.113	.127	.529	-.107	-.067	.038	.088	.003	.028
学校で居眠りをしている	.044	.122	.079	.483	-.087	.021	.018	.091	-.038	-.040
感情が表情に表れない	.014	.118	-.081	-.109	.789	.012	-.048	.023	-.044	.061
否定的な感情の表現(悲しい、腹が立つなど)がない	-.129	-.039	.106	-.030	.703	.003	.011	.013	.017	.005

悲しいときに無表情である	.070	-.069	.065	-.035	.691	.020	-.004	-.027	.052	-.021
肯定的な感情の表現(うれしい, たの しいなど)がない	-.027	.133	.000	.028	.627	-.008	.027	-.016	-.019	.054
泣かない	.074	-.127	-.027	.067	.581	-.051	-.074	.023	.085	-.048
この子が身体接触を求めてくるとき, どこか「性的ニュアンス」を感じる	-.059	.068	-.035	.006	-.009	.741	.005	-.061	-.010	.058
異性の身体にベタベタ触れたがる	-.085	.094	-.021	.071	-.063	.726	-.005	-.131	.002	.096
他の子と年齢に不相応な性的かわ りがある	-.019	-.126	.104	.083	.064	.723	.054	.035	-.093	-.057
年齢に比べて性的な事柄に対する関 心が高い	.167	-.009	-.032	-.019	-.046	.705	-.018	.038	.029	-.106
他の子と性的な遊びをする	-.061	-.027	.108	-.033	.059	.680	-.059	.165	.011	.001
生まれてこなければよかったなどと口 にする	.192	.063	.002	-.003	-.062	-.087	.717	.053	-.030	-.090
「死にたい」ともらす	.017	-.016	-.044	.105	-.073	.026	.697	-.020	.016	-.044
自分で自分の身体を殴る	-.149	-.108	.095	-.029	.010	.018	.677	.077	.055	.130
興奮したときに壁にぶつけるなど自 分の身体を痛めつける行為をする	-.222	-.062	.085	-.011	-.013	.039	.638	.034	.075	.194
「どうせ自分なんか・・・」などと, 自分を 卑下したようなことをいう	.341	.330	-.031	-.068	-.092	.025	.434	-.077	-.078	-.066
職員や他の子どもからの金品の持ち 出しがある	-.014	.103	-.027	-.041	-.013	.108	-.024	.625	.024	.106
万引きをする	.002	.073	.023	.000	.028	.027	.067	.617	.024	-.033
放火や弄火(火遊び)がある	-.057	.067	.021	-.087	-.020	-.016	.148	.585	.055	-.024
喫煙する	.025	.009	-.161	.349	-.085	.039	-.018	.495	.014	-.118
かつあげをしている	.133	-.078	.044	.113	.138	-.086	-.099	.492	-.013	.039
食べ物に執着する	.087	.009	-.077	-.005	-.019	-.033	.015	.049	.917	-.067
常におやつを求める	.070	.027	-.008	.060	-.022	-.013	-.011	.058	.732	-.021
過食がある	-.072	-.063	.132	.134	.120	-.003	.143	-.022	.516	.045
大暴れして物を壊したり人に殴りかか ったりするなど, いわゆる「パニック状 態」がある	.160	.030	-.042	.018	-.017	-.039	.055	.043	-.023	.788
怒りをもつと大暴れする	.163	.006	-.009	.106	.023	.016	-.021	-.011	-.032	.781
パニックを起こしたときなどに自分の 持ち物を破いたり壊したりする	.087	.021	-.031	.003	.033	.015	.177	-.022	-.015	.656

因子間相関	F1	.543	.472	.675	.460	.657	.577	.604	.566	.584
	F2		.339	.473	.345	.448	.431	.536	.487	.384
	F3			.350	.397	.620	.400	.367	.416	.271
	F4				.365	.604	.436	.503	.553	.600
	F5					.533	.408	.505	.335	.236
	F6						.516	.447	.495	.420
	F7							.433	.431	.489
	F8								.466	.418
	F9									.490

表 3-2 ACBL-R($\alpha=.964$) 10 因子 51 項目

虐待的人間関係の 再現性(挑発的行 為)力による対人関 係 (10 項目) ($\alpha=.945$)	虐待的人間 関係の再現 性(挑発的行 為) (5 項目)	大人に対して反抗的な態度を示す 大人や年長者に対して挑発的な態度をとる 職員などの大人の怒りをかうような言動が見られる 人の神経を逆なでする 大人の心を傷つける言動がある
	力による対人 関係 (5 項目)	年少の子どもに対して、威圧的態度をとる 自分を誇示するような言動がある 強者に対する態度と弱者に対する態度が極端に異なる イライラする 「どうせ大人は～」と、大人への不信感を口にする
自信の欠如 (5 項目) ($\alpha=.871$)		スポーツや趣味で得意だったり、自信を持っていることがない 勉強で何か得意な分野や自信を持っているものがまったくない 何事につけても自信がない 将来の夢がまったくもない 遊びや趣味などで夢中になれるものがない
注意/多動の問題 (5 項目) ($\alpha=.905$)		多動でじっとしていることが出来ない 落ち着きがない 注意の集中が出来ない 学用品などの物をよくなくす 衝動的に行動してしまう
学校不適応 (5 項目) ($\alpha=.808$)		無断欠席が多い 昼夜逆転である 不登校の傾向がある 朝起きられない 学校で居眠りをしている

感情の抑制/抑圧 (5 項目) ($\alpha=.813$)	感情が表情に表れない 否定的な感情の表現(悲しい, 腹が立つなど)がない 悲しいときに無表情である 肯定的な感情の表現(うれしい, たのしいなど)がない 泣かない
性的逸脱行為 (5 項目) ($\alpha=.845$)	この子が身体接触を求めてくるとき, どこか「性的ニュアンス」を感じる 異性の身体にベタベタ触れたがる 他の子と年齢に不相応な性的かかわりがある 年齢に比べて性的な事柄に対する関心が高い 他の子と性的な遊びをする
希死念慮/自傷性 (5 項目) ($\alpha=.770$)	生まれてこなければよかったなどと口にする 「死にたい」ともらす 自分で自分の身体を殴る 興奮したときに壁にぶつけるなど自分の身体を痛めつける行為をする 「どうせ自分なんか…」などと, 自分を卑下したようなことをいう
反社会的逸脱行動 (5 項目) ($\alpha=.769$)	職員や他の子どもからの金品の持ち出しがある 万引きをする 放火や弄火(火遊び)がある 喫煙する かつあげをしている
食物固執 (3 項目) ($\alpha=.836$)	食べ物に執着する 常におやつを求める 過食がある
感情調整障害 (3 項目) ($\alpha=.889$)	大暴れして物を壊したり人に殴りかかったりするなど, いわゆる「パニック状態」がある 怒りをもつと大暴れする パニックを起こしたときなどに自分の持ち物を破いたり壊したりする

表 3-3 ACBL-R の因子間相関

	総得点	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9
総得点	—									
F1	.909**	—								
F2	.782**	.602**	—							
F3	.823**	.714**	.595**	—						
F4	.663**	.491**	.551**	.444**	—					
F5	.595**	.454**	.573**	.365**	.403**	—				
F6	.641**	.532**	.442**	.457**	.370**	.304**	—			
F7	.730**	.631**	.559**	.517**	.459**	.395**	.439**	—		
F8	.661**	.559**	.425**	.472**	.494**	.324**	.473**	.421**	—	
F9	.671**	.555**	.462**	.542**	.390**	.365**	.446**	.442**	.415**	—
F10	.738**	.686**	.461**	.638**	.370**	.300**	.399**	.578**	.431**	.478**

**p<.01

表 3-4 クロンバックの α 係数

	総得点	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10
クロンバックの α 係数	.964	.945	.871	.905	.808	.813	.845	.770	.769	.836	.889

表 3-5 各群の ACBL-R 得点の平均と標準偏差

	総得点	虐待的 人間関係	力による 対人関係	自信の欠如	注意/多動	学校不適応
施設虐待群	87.12(24.44)	10.73(4.71)	9.61(3.82)	9.61(3.82)	10.51(4.71)	7.22(3.04)
施設非虐待群	71.16(19.32)	8.14(3.83)	8.05(3.42)	8.38(3.57)	8.16(3.80)	6.35(2.32)
一般群	57.15(12.71)	5.88(2.32)	5.79(1.94)	5.60(2.20)	6.28(2.67)	5.62(1.90)

	感情抑制/抑 圧	性的逸脱	希死/自傷	反社会的 行動	食べ物への 執着	感情調整障 害
施設虐待群	7.29(2.80)	7.20(3.10)	7.07(2.70)	6.64(2.76)	4.98(2.54)	5.38(2.88)
施設非虐待群	6.35(2.21)	6.07(2.14)	6.02(2.03)	5.86(1.89)	4.02(1.76)	4.24(2.20)
一般群	5.70(1.77)	5.18(0.86)	5.29(1.05)	5.18(0.93)	3.17(0.74)	3.33(1.20)